

告 辞

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんは、中学校3か年の課程を無事に終えられ、ただ今、栄えある卒業証書を手になされました。これは、皆さんが今日まで勉強や心身の鍛錬に励まれた賜物であり、喜びもひとしおのことと思います。

さて、今年7月、20年ぶりに新しい紙幣が発行されます。一万円札の肖像には、「近代日本経済の父」として知られる、渋沢栄一が選ばれました。渋沢栄一は、銀行をはじめ、鉄道やガス、電気など、生活に大切な役割を果たす、様々な会社の設立に関わった実業家です。

明治維新という、時代の大きな転換期を生きた栄一は、常に「個人の利益」ではなく「社会の利益」を第一に考え、たくさんの事業に携わります。しかし、その信念を貫くことは、決して容易なことではありませんでした。

その時代、日本では、人口増加による食料不足が深刻な問題となっていました。栄一は、農作物の生産量を増やすために、日本初となる化学肥料会社を設立します。ところが、当時、化学肥料は世の中になかなか理解されず、その普及は一筋縄ではいきませんでした。さらに、工場が火災に遭うという悲劇にも見舞われ、会社存続の危機に直面します。

しかし、栄一は、この会社が人々の生活を豊かにできると信じ、私財を投じてでも、経営を続けようとします。原材料を自社で調達するなど、経費の削減を行い、経営を立て直しました。やがて、この会社の事業は、国内の食料生産を増やし、人々の食生活を豊かにしていったのです。

栄一は、一時の成功や失敗は、長い人生においては些細なことであり、すべては強い意志や地道な努力によって、よい方向に変えられるという教訓として、「成敗は身に残る糟粕」という言葉を残しています。

皆さんは今、希望を胸に、新しい世界への一步を踏み出そうとしています。時には困難を前に、気持ちがあくじけそうになることもあるでしょう。そんな時こそ、結果だけにとらわれず、自分の信念を大切にし、誠実に努力を続け、力強く歩いてください。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、諸先生方、今日まで、数々の御支援をいただきました、保護者の皆様や地域の皆様、関係の方々に、深く感謝申し上げますとともに、卒業生の皆さんが、健やかに成長されることを心からお祈りしまして、告辞といたします。

令和6年3月7日

鈴鹿市教育委員会